

株式会社大気社

決算説明会資料

2023年3月期(2022年度)

2023年5月18日



目次

INDEX

1. 連結業績の概要	社長:長田 雅士	P.03
2. セグメント別業績の概要	管理本部長:中島 靖	P.09
3. 連結財務諸表		P.23
4. 中期経営計画の進捗 (2022年度～2024年度)	経営企画本部長:中川 正徳	P.27
5. 株主還元		P.39
6. Appendix		P.42

社長の長田でございます。

本日は、弊社の決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

私からは、2023年3月期の市場環境と業績、そして2024年3月期業績の見通しについてご説明します。

目次

INDEX

1. 連結業績の概要	社長：長田 雅士	P.03
2. セグメント別業績の概要		P.09
3. 連結財務諸表		P.23
4. 中期経営計画の進捗 (2022年度～2024年度)		P.27
5. 株主還元		P.39
6. Appendix		P.42

受注工事高は過去最高、全ての項目で増収増益を達成

市場環境(国内)

電子部品や医薬品などのメーカーによる投資が好調であり、首都圏におけるオフィスビルの建設需要や自動車メーカーによる投資も堅調に推移した。

市場環境(海外)

新型コロナウイルス感染症や資源価格の高騰などの影響による不透明感があったものの、各メーカーによる設備投資は回復傾向が続いた。

受注工事高

2,886億円

〔前期比 +24.4%〕

完成工事高

2,147億円

〔前期比 +2.6%〕

経常利益

130億円

〔前期比 +20.2%〕

親会社株主に帰属する
当期純利益

79億円

〔前期比 +9.2%〕

まず、当社グループにおける市場環境につきましては、国内市場では電子部品や医薬品などのメーカーによる投資が好調であり、首都圏におけるオフィスビルの建設需要や自動車メーカーによる投資も堅調に推移しました。

海外市場では新型コロナウイルス感染症や資源価格の高騰などの影響による不透明感があったものの、各メーカーによる設備投資は回復傾向が続きました。

そのような市場環境のもと、受注工事高は過去最高を達成しました。また、業績面につきましては、全ての項目において前期比で増収増益を達成しました。

受注工事高・完成工事高・経常利益において、予想を上回る

(億円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	前期比 増減	2023年3月期 予想	予想比 差異
受注工事高	2,321	2,886	565	2,830*	56
完成工事高	2,092	2,147	55	2,125	22
経常利益	108	130	21	120	10
経常利益率	5.2%	6.1%	0.9pt	5.6%	0.4pt
親会社株主に帰属する当期純利益	72	79	6	86	-6
当期純利益率	3.5%	3.7%	0.2pt	4.0%	-0.4pt
ROE	5.9%	6.3%	0.4pt	6.8%	-0.5pt
EPS	212.69円	234.62円	21.93円	-	-

※ 第3四半期決算時に修正

■ 主要拠点の為替レート

(円)	① 2022年3月期通期	② 2023年3月期通期
USドル	109.86	130.78
タイバーツ	3.44	3.73
人民元	17.03	19.39
インドルピー	1.52	1.68

■ 為替影響額

①と②の為替差による影響
完成工事高:82億円/経常利益:3億円

このような状況のもと、予想比においては、受注工事高、完成工事高、経常利益において、通期業績の予想を上回りました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、期初予想時に想定していなかった特別損失を計上したことで、修正予想を下回りました。

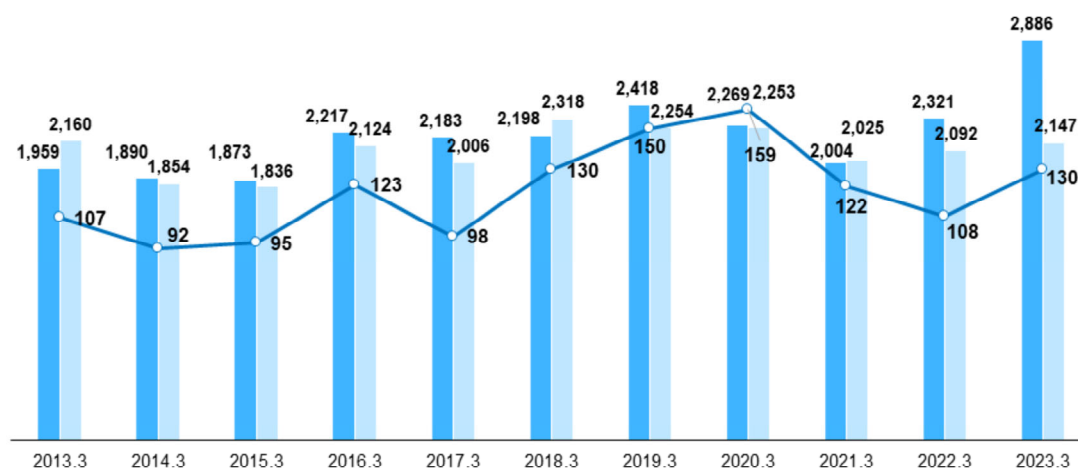
また、当社の主要拠点の為替レートと、為替影響額についても記載しておりますので、ご参照ください。

受注工事高は過去最高、完成工事高・経常利益は堅調に推移

■ 受注工事高・完成工事高・経常利益 推移

(億円)

■ 受注工事高
■ 完成工事高
○ 経常利益



Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

6

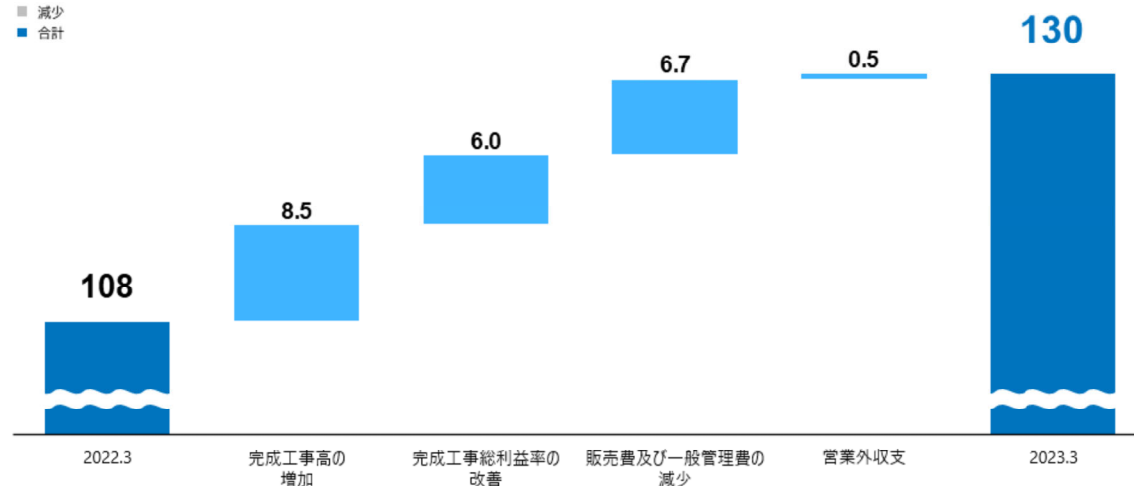
当頁では、業績の推移をお示ししております。

足元では新型コロナウイルス感染症による影響から回復傾向にあり、2023年3月期の受注工事高は過去最高となり、完成工事高、経常利益は堅調に推移しております。

主に完成工事高増と利益率改善により前期比で増加

■ 経常利益の主な増減要因(前期比)

(億円) ■ 増加
■ 減少
■ 合計



Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

7

当頁では、2023年3月期の経常利益の増減要因をお示ししております。

主に完成工事高増と利益率改善により、前期比で増加しております。

手持ち工事量の大幅な増加に伴う受注量の調整により、受注は減少するものの、増収増益を見込む

通期業績予想

(億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	前期比 増減
受注工事高	2,886	2,180	-706
完成工事高	2,147	2,550	402
営業利益	115	131	15
経常利益	130	140	9
親会社株主に帰属する当期純利益	79	93	13
ROE	6.3%	7.3%	1.0pt

主要拠点の為替レート

(円)	2023年3月期決算	2024年3月期想定
USドル	130.78	128.00
タイバーツ	3.73	3.85
人民元	19.39	18.80
インドルピー	1.68	1.57

為替変動による影響額

2024年3月期業績予想において、
全為替レートが1%変動した場合の影響額
完成工事高:12億円/経常利益:0.6億円

続いて、2024年3月期の通期の業績予想についてご説明します。

受注工事高は、手持ち工事量の大幅な増加に伴う受注量の調整により、全社で減少、完成工事高は、手持ち工事が順調に進捗することで増加、経常利益については、完成工事高増により、増益となる見通しです。

親会社株主に帰属する当期純利益については、経常利益増に加え、特別損失の剥落により増益となる見通しです。

また、当社の主要拠点の想定為替レートと、為替変動による影響額についても記載しておりますので、ご参照ください。

セグメントごとの要因につきましては、後ほど、管理本部長の中島よりご説明します。

目次

INDEX

1. 連結業績の概要	P.03
2. セグメント別業績の概要	P.09
3. 連結財務諸表	P.23
4. 中期経営計画の進捗 (2022年度～2024年度)	P.27
5. 株主還元	P.39
6. Appendix	P.42

管理本部長の中島です。

当頁からは、セグメント別業績の概要についてご説明します。

環境システム事業、塗装システム事業ともに前期比で増加

(億円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	前期比 増減	2023年3月期 予想※	予想比 差異
受注工事高合計	2,321	2,886	565	2,830	56
うち国内	1,434	1,527	92	1,511	16
うち海外	886	1,359	473	1,319	40
環境システム事業	1,589	2,080	491	2,050	30
ビル空調	433	361	-71	352	9
産業空調	1,155	1,718	563	1,698	20
塗装システム事業	732	805	73	780	25

※ 第3四半期決算時に修正

Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

10

ここからは、2023年3月期の事業別の業績についてご説明します。

当頁は、事業別の受注工事高を前期比および予想比でまとめています。

全社では、環境システム事業、塗装システム事業ともに増加し、前期比565億円の増加で2,886億円となりました。

予想比においては、すべての分野で、第3四半期決算時に修正した予想を上回りました。

次頁から、事業ごとに順番にご説明します。

産業空調分野がけん引し、前期比で大幅に増加

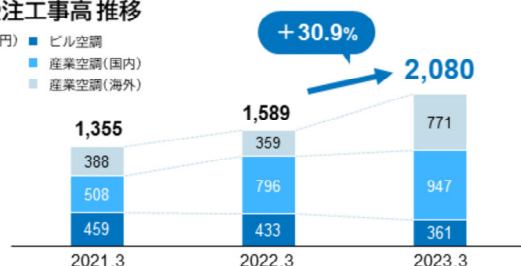
(億円)	2022年3月期実績	2023年3月期実績	前期比増減	2023年3月期予想*	予想比差異
環境システム事業 受注工事高	1,589	2,080	491	2,050	30
ビル空調	433	361	-71	352	9
産業空調	1,155	1,718	563	1,698	20
うち国内	796	947	151	928	19
うち海外	359	771	411	770	1
海外比率	22.6%	37.1%	14.5pt	37.6%	-0.5pt

※ 第3四半期決算時に修正

受注工事高推移

(億円)

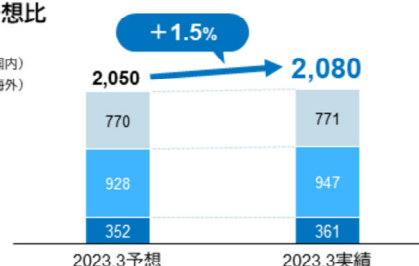
- ビル空調
- 産業空調(国内)
- 産業空調(海外)



受注工事高 予想比

(億円)

- ビル空調
- 産業空調(国内)
- 産業空調(海外)



Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

11

当頁は、環境システム事業の受注工事高を前期比および予想比でまとめています。

前期比においては、491億円増の2,080億円となりました。

ビル空調分野は、市場環境は良好なものの、国内の産業空調分野の受注を優先した結果、減少しました。

産業空調分野は、国内において、半導体関連メーカーや製薬メーカーの大型案件が寄与し、増加しました。

海外においても、半導体関連メーカーの大型案件が寄与し、増加しました。

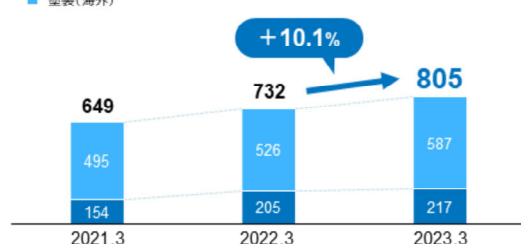
予想比においては、環境システム事業の全ての分野において、第3四半期決算時に修正した予想を上回る受注量を確保することができました。

国内、海外ともに前期比で増加

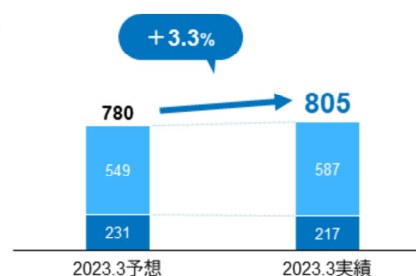
(億円)	2022年3月期実績	2023年3月期実績	前期比増減	2023年3月期予想*	予想比差異
塗装システム事業 受注工事高	732	805	73	780	25
うち国内	205	217	12	231	-13
うち海外	526	587	61	549	38
海外比率	72.0%	73.0%	1.0pt	70.4%	2.6pt

※ 第3四半期決算時に修正

■ 受注工事高推移

(億円) ■ 塗装(国内)
■ 塗装(海外)

■ 受注工事高予想比

(億円) ■ 塗装(国内)
■ 塗装(海外)

Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

12

当頁は、塗装システム事業の受注工事高を前期比および予想比でまとめています。

前期比においては、73億円増の805億円となりました。

塗装システム事業全体としては、Geico社の連結除外による反動減があったものの、国内、海外ともに自動車メーカーによる大型物件が寄与し、増加しました。

予想比においては、第3四半期決算時に修正した予想を上回る受注量を確保することができました。

環境システム事業、塗装システム事業ともに前期比で大幅に増加

(億円)	2021年3月期実績 A	2022年3月期実績 B	2023年3月期実績 C	増減 B-A	増減 C-B
受注工事高	2,004	2,321	2,886	316	565
完成工事高	2,025	2,092	2,147	67	55
繰越工事高	1,722	1,982	2,582	260	600
環境システム事業	1,180	1,431	1,828	251	397
ビル空調	505	527	436	22	-91
産業空調	674	903	1,392	229	488
塗装システム事業	541	551	754	9	202

事業別繰越工事高の内訳

(億円) ■ ビル空調 ■ 産業空調(国内) ■ 産業空調(海外) ■ 塗装(国内) ■ 塗装(海外)



Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

13

当頁は、事業別の繰越工事高を3ヶ年でまとめています。

2022年3月期は、前期比260億円増の1,982億円でありましたが、塗装システム事業においては、2023年3月期の期首に連結除外となったGeico社の繰越工事高が198億円含まれておりました。

2023年3月期は、前期比600億円増の2,582億円となりました。環境システム事業において、ビル空調では減少したものの、産業空調分野で大幅に増加し、前期比397億円の増加となりました。塗装システム事業においては、Geico社の連結除外による反動減があったものの、国内、海外ともに増加し、前期比202億円の増加となりました。

環境システム事業の増収増益により、塗装システム事業の減収減益をカバー

(億円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	前期比 増減	2023年3月期 予想※	予想比 差異
完成工事高合計	2,092	2,147	55	2,125	22
うち国内	1,077	1,342	265	1,320	22
うち海外	1,015	805	-209	805	0
環境システム事業	1,343	1,718	374	1,700	18
ビル空調	409	453	43	446	7
産業空調	934	1,264	330	1,254	10
塗装システム事業	748	429	-319	425	4
経常利益合計	108	130	21	120	10
経常利益率	5.2%	6.1%	0.9pt	5.6%	0.4pt
環境システム事業	93	145	52	130	15
経常利益率	6.9%	8.5%	1.6pt	7.6%	0.8pt
塗装システム事業	6	-16	-22	-10	-6
経常利益率	0.9%	-3.7%	-4.6pt	-2.4%	-1.4pt

※ 第3四半期決算時に修正

Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

14

当頁は、事業別の完成工事高と経常利益を前期比および予想比でまとめています。

完成工事高において、塗装システム事業で減少したものの、環境システム事業の増加でカバーし、全社では前期比55億円の増加で2,147億円となりました。

予想比においては、すべての分野で、第3四半期決算時に修正した予想を上回りました。

経常利益においても、塗装システム事業で減少したものの、環境システム事業の増加でカバーし、全社では前期比21億円の増加、予想比では10億円の上振れで130億円となりました。

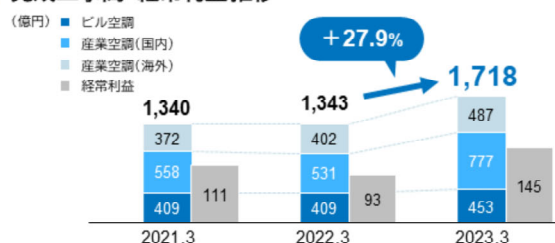
次頁から、事業ごとに順番にご説明します。

産業空調分野がけん引し増収増益を達成

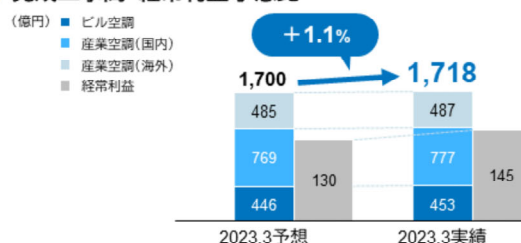
	2022年3月期実績	2023年3月期実績	前期比増減	2023年3月期予想*	予想比差異
環境システム事業 完成工事高	1,343	1,718	374	1,700	18
ビル空調	409	453	43	446	7
産業空調	934	1,264	330	1,254	10
うち国内	531	777	245	769	8
うち海外	402	487	85	485	2
海外比率	30.0%	28.4%	-1.6pt	28.5%	-0.2pt
環境システム事業 経常利益	93	145	52	130	15
経常利益率	6.9%	8.5%	1.6pt	7.6%	0.8pt

※ 第3四半期決算時に修正

完成工事高・経常利益推移



完成工事高・経常利益予想比



Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

15

当頁は、環境システム事業の完成工事高と経常利益を前期比および予想比でまとめています。

まず、完成工事高は、前期比374億円増の1,718億円となりました。

ビル空調分野と産業空調分野の国内は、2022年3月期に比べ期初の繰越工事高が多く、増加しました。

産業空調分野の海外は、比較的工期の長い物件において、2023年3月期に進捗した物件が多く、増加しました。

次に経常利益は、完成工事高の増加により、前期比52億円増の145億円となりました。

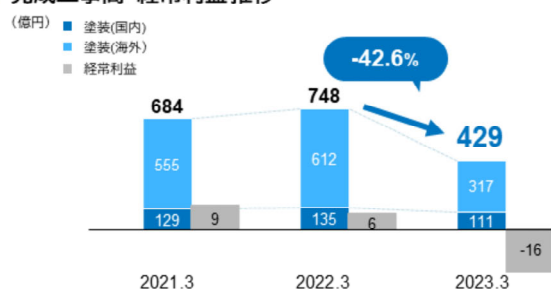
また、原価低減活動による利益改善が進み、予想を上回りました。

客先の生産計画変更などによる影響で大幅な減収、
それに伴い、経常損失を計上

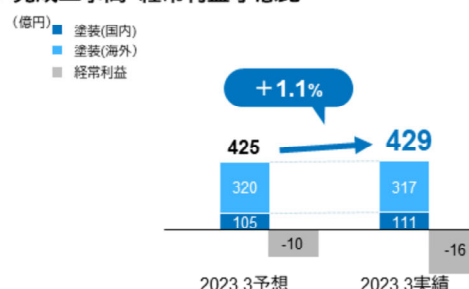
(億円)	2022年3月期実績	2023年3月期実績	前期比増減	2023年3月期予想※	予想比差異
塗装システム事業 完成工事高	748	429	-319	425	4
うち国内	135	111	-24	105	6
うち海外	612	317	-295	320	-2
海外比率	81.9%	74.0%	-7.8pt	75.3%	-1.3pt
塗装システム事業 経常利益	6	-16	-22	-10	-6
経常利益率	0.9%	-3.7%	-4.6pt	-2.4%	-1.4pt

※ 第3四半期決算時に修正

■ 完成工事高・経常利益推移



■ 完成工事高・経常利益予想比



Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

16

当頁は、塗装システム事業の完成工事高と経常利益を前期比および予想比でまとめています。

まず、完成工事高は、前期比319億円減の429億円となりました。

Geico社の連結除外に加え、国内、海外ともに客先の生産計画変更に伴う出来高の後ろ倒しなどがあり、大きく減少しました。

次に経常利益は、前期比で22億円減少し、16億円の経常損失となりました。

ただいまご説明しました通り、完成工事高が大きく減少したことで、販売費及び一般管理費を賄いきれず、経常損失となりました。

予想比においては、主に単体の特定プロジェクトによる想定以上の原価発生により、予想を下回りました。

環境システム事業、塗装システム事業ともに減少を見込む

(億円)	2023年3月期 実績			2024年3月期 予想			前期比増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
受注工事高合計	1,620	1,266	2,886	1,023	1,157	2,180	-597	-109	-706
うち国内	1,050	476	1,527	620	620	1,240	-430	143	-287
うち海外	569	789	1,359	403	537	940	-166	-252	-419
環境システム事業	1,266	814	2,080	730	800	1,530	-536	-14	-550
ビル空調	195	166	361	135	95	230	-60	-71	-131
産業空調	1,070	648	1,718	595	705	1,300	-475	56	-418
塗装システム事業	354	451	805	293	357	650	-61	-94	-155

Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

17

ここからは、2024年3月期の業績予想を事業別にご説明します。

当頁は、事業別の受注工事高を前期比でまとめています。

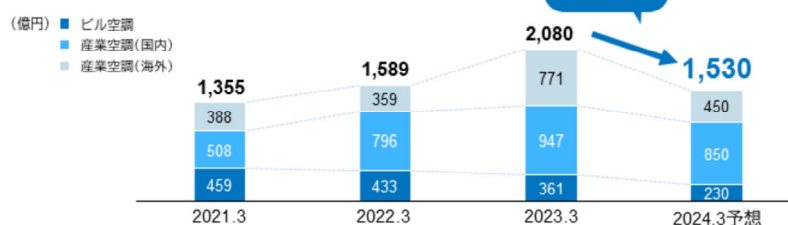
全社では、環境システム事業、塗装システム事業ともに減少し、前期比706億円の減少で2,180億円となる見通しです。

次頁から、事業ごとに順番にご説明します。

市場環境は良好なものの、手持ち工事量の大幅増加に伴う受注量調整により、
全ての分野で減少を見込む

(億円)	2023年3月期 実績			2024年3月期 予想			前期比増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
環境システム事業 受注工事高	1,266	814	2,080	730	800	1,530	-536	-14	-550
ビル空調	195	166	361	135	95	230	-60	-71	-131
産業空調	1,070	648	1,718	595	705	1,300	-475	56	-418
うち国内	693	254	947	375	475	850	-318	220	-97
うち海外	377	394	771	220	230	450	-157	-164	-321
海外比率	29.8%	48.4%	37.1%	30.1%	28.8%	29.4%	0.3pt	-19.7pt	-7.7pt

■ 受注工事高 推移



Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

18

当頁は、環境システム事業の受注工事高を前期比でまとめています。

市場環境の見通しについてご説明しますと、ビル空調分野の建設需要は、底堅く推移すると考えております。

産業空調分野では、電気電子分野において、AI・IoT機器・自動運転システム等の需要拡大により、引き続き設備投資が継続すると予想しており、海外においても、同様の傾向が継続すると見込んでおります。

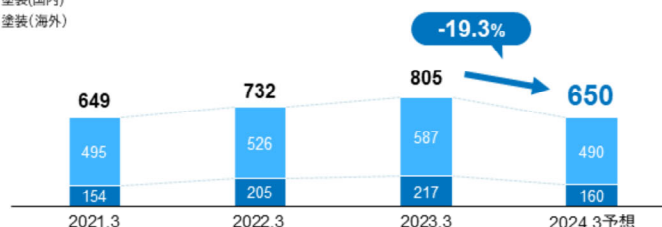
ただいまご説明しました通り、市場環境は良好なものの、手持ち工事量の大幅な増加に伴う受注量の調整により、環境システム事業の受注工事高は、前期比550億円減の1,530億円となる見通しです。

市場環境は良好なものの、手持ち工事量の大幅な増加に伴う受注量の調整により、国内、海外ともに減少を見込む

(億円)	2023年3月期 実績			2024年3月期 予想			前期比増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
塗装システム事業 受注工事高	354	451	805	293	357	650	-61	-94	-155
うち国内	161	56	217	110	50	160	-51	-6	-57
うち海外	192	395	587	183	307	490	-9	-88	-97
海外比率	54.4%	87.6%	73.0%	62.5%	86.0%	75.4%	8.1pt	-1.6pt	2.4pt

■ 受注工事高 推移

(億円) ■ 塗装(国内)
■ 塗装(海外)



Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

19

当頁は、塗装システム事業の受注工事高を前期比でまとめています。

市場環境の見通しについてご説明しますと、自動車メーカーに関しては、ウクライナ情勢の長期化による欧州メーカーの設備投資への影響があるものの、北米・日本などでは設備更新投資、中国・インドなどでは増産投資が見込まれており、需要は底堅く推移すると想定しております。

ただいまご説明しました通り、市場環境は良好なものの、手持ち工事量の大幅な増加に伴う受注量の調整により、塗装システム事業の受注工事高は、前期比155億円減の650億円となる見通しです。

環境システム事業は増収減益、塗装システム事業は増収増益を見込む

(億円)	2023年3月期 実績			2024年3月期 予想			前期比増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
完成工事高合計	857	1,290	2,147	1,271	1,279	2,550	413	-11	402
うち国内	539	802	1,342	783	573	1,356	243	-229	13
うち海外	318	487	805	488	706	1,194	169	218	388
環境システム事業	675	1,042	1,718	1,030	895	1,925	354	-147	206
ビル空調	175	278	453	210	120	330	34	-158	-123
産業空調	500	764	1,264	820	775	1,595	319	10	330
塗装システム事業	182	247	429	241	384	625	58	136	195
経常利益合計	46	83	130	63	77	140	16	-6	9
経常利益率	5.4%	6.5%	6.1%	5.0%	6.0%	5.5%	-0.5pt	-0.4pt	-0.6pt
環境システム事業	53	92	145	67	65	132	13	-27	-13
経常利益率	7.9%	8.9%	8.5%	6.5%	7.3%	6.9%	-1.4pt	-1.6pt	-1.6pt
塗装システム事業	-10	-5	-16	-5	14	9	5	19	25
経常利益率	-5.7%	-2.3%	-3.7%	-2.1%	3.6%	1.4%	3.6pt	5.9pt	5.2pt

Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

20

当頁は、事業別の完成工事高と経常利益を前期比でまとめています。

完成工事高は、環境システム事業、塗装システム事業ともに増加し、全社では前期比402億円の増加で2,550億円となる見通しです。

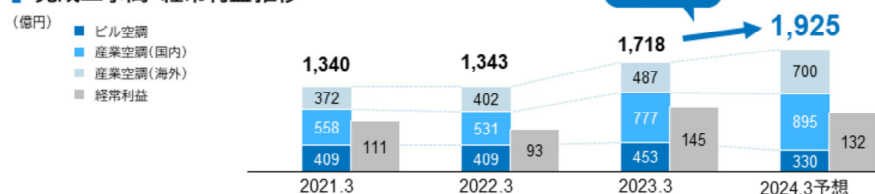
経常利益は、環境システム事業で減少するものの、塗装システム事業で増加し、全社では前期比9億円の増加で140億円となる見通しです。

次頁から、事業ごとに順番にご説明します。

産業空調分野がけん引し増収となるものの、
戦略的に受注した採算性の低い物件の比率が高まり、減益の見通し

(億円)	2023年3月期 実績			2024年3月期 予想			前期比増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
環境システム事業 完成工事高	675	1,042	1,718	1,030	895	1,925	354	-147	206
ビル空調	175	278	453	210	120	330	34	-158	-123
産業空調	500	764	1,264	820	775	1,595	319	10	330
うち国内	309	467	777	530	365	895	220	-102	117
うち海外	190	297	487	290	410	700	99	112	212
海外比率	28.2%	28.5%	28.4%	28.2%	45.8%	36.4%	0.0pt	17.3pt	8.0pt
環境システム事業 経常利益	53	92	145	67	65	132	13	-27	-13
経常利益率	7.9%	8.9%	8.5%	6.5%	7.3%	6.9%	-1.4pt	-1.6pt	-1.6pt

完成工事高・経常利益推移



Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

21

当頁は、環境システム事業の完成工事高と経常利益を前期比でまとめています。

まず、完成工事高は、前期比206億円増の1,925億円となる見通しです。ビル空調分野は、産業空調分野の受注を優先していることで、2023年3月期に比べ期初の繰越工事高が少なく、減少する見通しです。

産業空調分野は、国内、海外ともに、大型物件の進捗により増加する見通しです。

次に経常利益は、前期比13億円減の132億円となる見通しです。

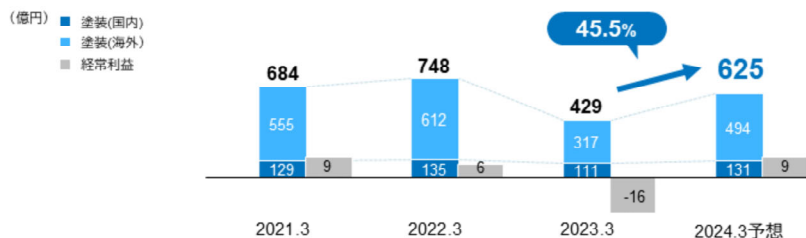
ただいまご説明しました通り、大型物件の進捗により完成工事高は増加するものの、採算性の低い大型物件の比率が高まり、減益となる見通しです。

なお、それらの採算性の低い物件は、当社のさらなる技術力獲得のために戦略的に受注した案件であります。

海外がけん引し増収、経常利益への黒字転換を見込む

(億円)	2023年3月期 実績			2024年3月期 予想			前期比増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
塗装システム事業 完成工事高	182	247	429	241	384	625	58	136	195
うち国内	54	57	111	43	88	131	-11	30	19
うち海外	128	189	317	198	296	494	69	106	176
海外比率	70.2%	76.8%	74.0%	82.2%	77.1%	79.0%	11.9pt	0.3pt	5.0pt
塗装システム事業 経常利益	-10	-5	-16	-5	14	9	5	19	25
経常利益率	-5.7%	-2.3%	-3.7%	-2.1%	3.6%	1.4%	3.6pt	5.9pt	5.2pt

完成工事高・経常利益推移



Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

22

当頁は、塗装システム事業の完成工事高と経常利益を前期比でまとめています。

まず、完成工事高は、前期比195億円増の625億円となる見通しです。

2023年3月期は、国内、海外ともに客先の生産計画変更に伴う出来高の後ろ倒しなどがありましたが、2024年3月期は、その傾向は徐々に解消され、増加する見通しです。

次に経常利益は、完成工事高の増加に伴い、前期比で25億円増加し、9億円の経常利益となり、黒字に転換する見通しです。

目次

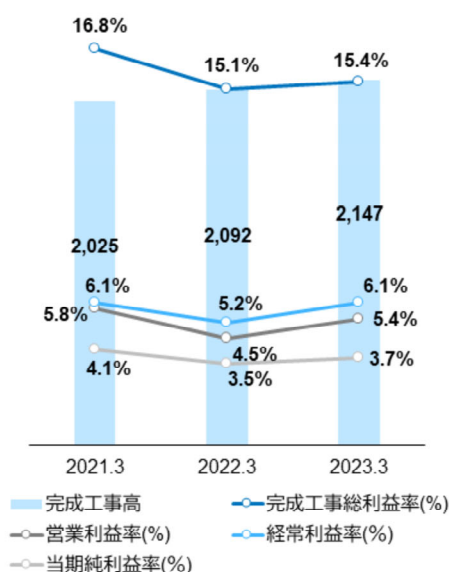
INDEX

1. 連結業績の概要	P.03
2. セグメント別業績の概要	P.09
3. 連結財務諸表	P.23
4. 中期経営計画の進捗 (2022年度～2024年度)	P.27
5. 株主還元	P.39
6. Appendix	P.42

管理本部長：中島 靖

当頁からは、連結財務諸表を順番にお示しします。

(億円)	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
完成工事高	2,025	2,092	2,147
完成工事総利益	340	316	330
完成工事総利益率	16.8%	15.1%	15.4%
営業利益	116	94	115
営業利益率	5.8%	4.5%	5.4%
経常利益	122	108	130
経常利益率	6.1%	5.2%	6.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	82	72	79
当期純利益率	4.1%	3.5%	3.7%
ROE	7.2%	5.9%	6.3%



当頁は、3ヶ年の業績の推移を表しています。

親会社株主に帰属する当期純利益は、経常利益の増加があったものの、ベジ・ファクトリー社において減損損失を計上したこと、前期から6億円の増加に留まり、79億円となりました。

貸借対照表

(億円)

科目	2022年 3月期	2023年 3月期	増減
流動資産	1,681	1,844	162
現金預金	490	469	-20
受取手形・完成工事未収入金等	1,049	1,242	192
有価証券	30	-	-30
未成工事支出金及び材料貯蔵品	27	31	4
その他	90	107	16
貸倒引当金	-7	-6	0
固定資産	599	526	-73
有形固定資産	112	85	-26
のれん	39	36	-3
その他無形固定資産	34	22	-11
投資有価証券	296	264	-31
繰延税金資産	5	5	0
その他	116	115	-0
貸倒引当金	-4	-5	-1
資産合計	2,281	2,371	89

科目	2022年 3月期	2023年 3月期	増減
流動負債	818	959	140
支払手形・工事未払金等	471	554	83
未成工事受入金	69	233	164
工事損失引当金	3	3	-0
その他	274	168	-106
固定負債	154	91	-63
負債合計	973	1,051	77
純資産	1,307	1,319	12
資本金	64	64	-
資本剰余金	50	35	-15
利益剰余金	998	1,002	4
自己株式	-25	-11	13
その他有価証券評価差額金	119	105	-13
繰延ヘッジ損益	-0	-0	-0
為替換算調整勘定	20	47	27
退職給付に係る調整累計額	19	14	-5
非支配株主持分	60	62	1
負債純資産合計	2,281	2,371	89

Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

25

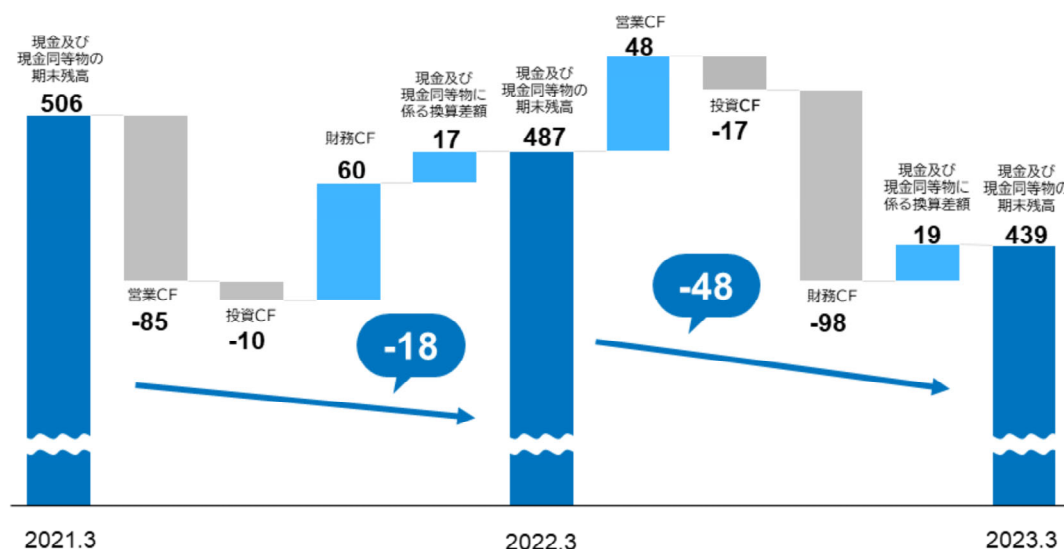
当頁は、連結の貸借対照表です。ご参照ください。

営業CF: 当期純利益の増加によりプラス

財務CF: 配当金の支払い、自己株式の取得、インドの連結子会社 Nicomac Taikisha Clean Roomsへの追加出資によりマイナス

■ 現金及び現金同等物の期末残高推移

(億円)



Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

26

当頁は、連結のキャッシュフロー計算書です。

2023年3月期の現金及び現金同等物の期末残高は、2022年3月期末より48億円減少し、439億円となりました。

営業キャッシュフローは、当期純利益の増加などにより、48億円のプラスとなりました。

財務キャッシュフローは、配当金の支払い、自己株式の取得、インドの連結子会社Nicomac Taikisha Clean Roomsへの追加出資などにより、98億円のマイナスとなりました。

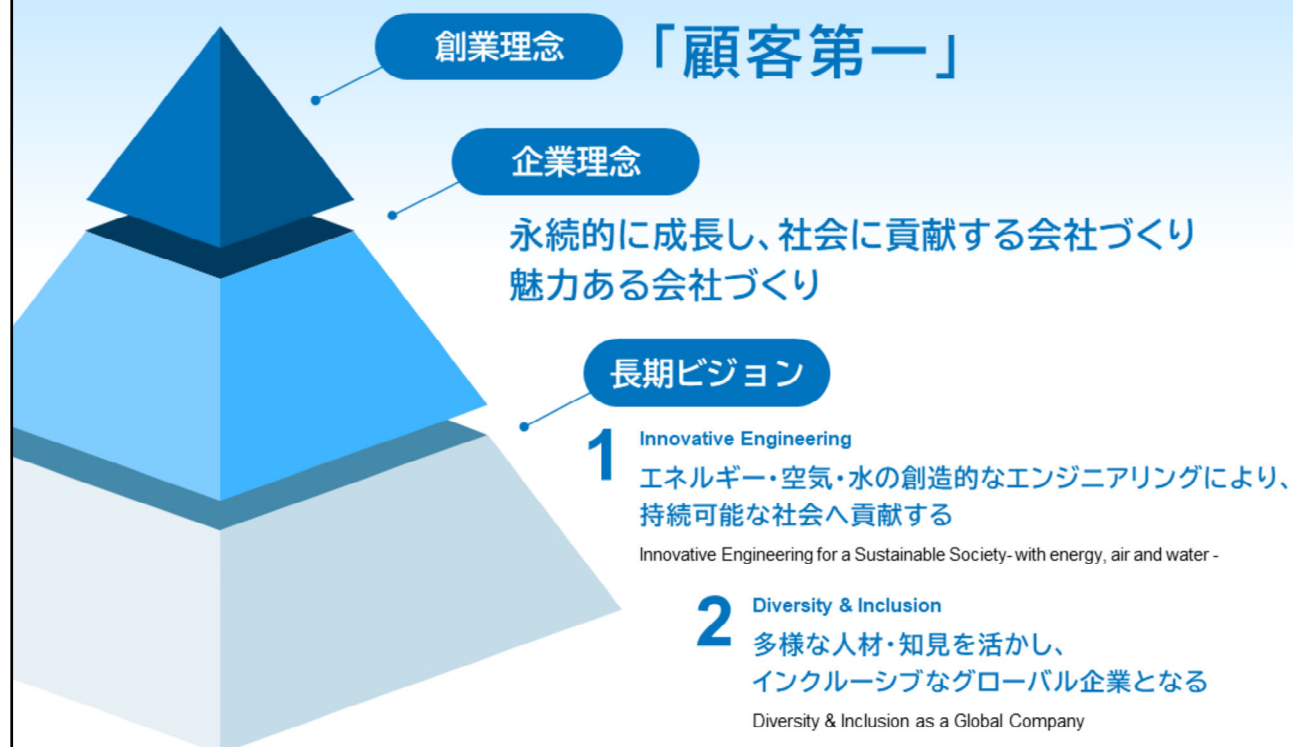
目次

INDEX

1. 連結業績の概要	P.03
2. セグメント別業績の概要	P.09
3. 連結財務諸表	P.23
4. 中期経営計画の進捗 (2022年度～2024年度)	経営企画本部長: 中川 正徳 P.27
5. 株主還元	P.39
6. Appendix	P.42

経営企画本部長の中川です。

ここからは、中期経営計画の進捗をご説明します。



Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

28

当頁は、本中計の策定にあたり見直した長期ビジョンを記載しております。

Innovative Engineering と Diversity & Inclusionという二つのビジョンを掲げております。

2024年3月期の完成工事高、利益は中期経営計画の目標を上回る予定

	中期経営計画期間				5年後の目指す姿
(億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	2024年3月期 目標	2025年3月期 目標	2027年3月期 目標
受注工事高	2,886	2,180	2,230	2,360	2,700
完成工事高	2,147	2,550	2,235	2,380	2,650
経常利益	130	140	135	150	165
親会社株主に帰属する当期純利益	79	93	91	96	
ROE	6.3%	7.3%	7.0%	7.2%	
DOE	3.2%	3.2%を目指し、安定的な配当を実施			
自己株式取得	30	年間20億円を目途に実施			
政策保有株式の保有額対純資産比	21.8%	2024年3月期までに、20%未満に削減			

※「目標」は2022年5月16日開示の中期経営計画の数値目標

Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

29

当頁は、本中計の財務目標について記載しております。

2024年3月期の完成工事高、利益は中計で掲げていた目標を上回る予定です。

中期経営計画で掲げた非財務目標に加えて、
2023年4月25日にTCFD提言に基づく気候関連情報の開示を行った

非財務目標 事業活動に伴うCO₂排出量(スコープ1・2) ⇒ 2030年までに46%削減(2015年度実績比)

TCFD提言に基づく気候関連情報の開示 TCFD

■ ガバナンス

業務執行取締役の報酬体系について非財務指標を一定割合導入し、気候変動に対する活動の強化を後押しする方向で見直し

■ 戦略/リスク管理

- 2035年において当社への影響度が高いリスクと機会を洗い出し
- リスクマネジメント委員会を設置し、気候変動を含む重大なリスクの低減と顕在化するリスクの最小化に努める

重要なリスク・機会	想定される対応策
炭素税	- GHG削減目標の設定 - 低炭素技術・システム開発 - 再生可能エネルギー業界への参入
顧客行動の変化 省エネ・再エネ技術の普及	- エネルギー循環システムの構築 - 塗装技術の改善・習得・商品開発推進 - CO₂回収・循環技術等の開発
平均気温の上昇	- 植物工場事業の多角展開 - 施工における機械化・自動化の推進 - 労働環境の整備・熱中症対策の推進

■ 指標と目標

CO₂排出量について事業ごとに2050年・2030年の目標を設定

	環境システム事業	塗装システム事業
2050年削減目標	CO ₂ 排出量80%削減※ (2013年度比)	将来のエネルギー変革を加味した技術で、自動車1台あたりCO ₂ 排出量を実質ゼロ化
2030年マイルストーン	CO ₂ 排出量25%削減※ (2013年度比)	現状の塗装工程の熱源構成のまま、自動車のCO ₂ 排出量を60kg-CO ₂ /台まで削減
2022年度取り組み(実績)	建築物のライフサイクルを通じて、使用エネルギーを抑制するシステムを提案し、優れた「低炭素化」「環境負荷低減」技術を提供	塗装ラインのエネルギー試算モデルを活用し、設備の高効率化・小型化を図り、再生可能エネルギーや低温排熱改修システム等を導入

※ 当社の設計施工による設備の運用段階における削減目標

当頁は、本中計の非財務目標について記載しております。

中計で掲げた、スコープ1, 2のCO₂排出量の削減目標に加えて、先月の4月25日にTCFD提言に基づく気候関連情報の開示を行いました。

業務執行取締役の報酬体系について非財務指標を一定割合導入したことで、気候変動に対する活動の強化を後押しする方向で見直しました。

戦略、リスク管理、指標と目標に関してはこちらに掲げております通りで、詳細は当社ホームページをご覧ください。

2023年3月期は、合計39億円実施

	2023年3月期主な実施内容	2023年3月期 実績	2024年3月期 計画	2025年3月期 計画
事業関連投資	・ インドの連結子会社 Nicomac Taikisha Clean Rooms Private Limitedへの出資比率引き上げ	25億円		
設備・人材投資	・ BIMを始めとする現場DX運用検証費用(構築中) ・ グローバルな基幹業務システムの構築費用(構築中)	6億円		160億円
技術開発投資	・ 本社にR&Dサテライト設置 ・ 塗装システム事業のカーボンニュートラル向け研究開発投資(開発中)	7億円		

中期経営計画期間 3か年合計

200億円

当頁は、本中計の投資計画について記載しております。

2023年3月期は、中計期間の200億円の投資計画のうち、39億円実施いたしました。

事業関連投資としては、インドの連結子会社Nicomac Taikisha Clean Roomsへの追加出資、設備・人材投資としては、現場DX関連の取り組みをスタートさせ、またグローバルな基幹業務システムの構築を進めています。

技術開発投資としては、環境システム事業は本社にR&Dサテライトを設置、塗装システム事業はカーボンニュートラル向けの研究を進めています。

今後の投資計画に関しましては、ご説明可能となったものから順次、取り組みをお伝えしていければと思っております。

基本方針	方向性	取組み
1 コア事業のさらなる強化 当社の強みである追求型の課題解決により継続的に付加価値を創出する	環境システム事業	付加価値を生み出し続ける事業展開
		技術の大気社を強化
	塗装システム事業	業務の仕組みの改善と生産性向上
		国内外での確固たる地位の確立
2 新たな価値創出への挑戦 自社の技術と外部知見との融合によりイノベーションを生み出し、事業領域を拡大する	知的財産戦略の立案・推進	カーボンニュートラルの実現に向けた脱炭素ビジネスへの取組み 顧客・プロジェクトの技術ニーズに応え続ける体制とプロフェッショナルの育成
		新技術開発センター・R&Dサテライトの活用による顧客ニーズの把握・共同開発 営業部門と開発部門の協働による顧客への積極的な技術提案とシーズの掘り起こし
	顧客視点の開発	働きやすさ向上のため業務のデジタル化・DX化 ムリ・ムダ・ムラをなくす業務プロセス変革 サプライヤーとの関係強化と共に成長できる仕組みづくり
		非日系顧客のニーズに応える技術の多様化 パートナー企業との協働による、非四輪新規顧客へのアプローチ 海外ネットワークを活用した、現地に根差した事業展開
3 変革・成長を支える経営基盤の強化 事業構造の転換に向け、人的資本・デジタル戦略・ガバナンスに重点を置いて取り組む	オープンイノベーション	カーボンニュートラル実現のため、技術開発により顧客の生産技術の変革に貢献 海外拠点と連動した開発体制の構築
		業務プロセスのデジタル化による現場業務の効率化、自動化 グローバルな教育プログラム設計 プロジェクト管理体制の見直しによる人員最適化
	強みとなる技術の水平展開	自社の知財・無形固定資産を活用した経営戦略を推進
		アクセスの良いR&Dサテライトを設置し、積極的な顧客ニーズの把握を推進
	新規事業の開拓	新研究開発センターをオープンし、學術機関・スタートアップ企業との融合による革新的技術開発を推進
		グリーン機器事業 空調設備業と製造業の融合でニッチな分野の事業創造 オートメーション事業 ロボット制御技術に注力し、自動サンギング装置などの非四輪市場を開拓 植物工場事業 プラント建設と工場野菜の生産販売の積極的市場開拓により、ブランド確立へ
	人的資本の育成・確保	知財の活用、R&Dを通じた外部知見との融合から、新規事業を追求
		イノベーションを生み出す組織風土づくり 社員エンゲージメントの向上 計画的な人材価値の開発
	新たな価値提供に向けたデジタル戦略	現場のデジタル化・DX化による生産性向上 グローバルなIT・DX体制構築 研究開発・新事業創出に向けたデジタル融合
		資本コストを踏まえた事業ポートフォリオマネジメント 関係会社の取締役会・監査機能の実効性強化
	グループガバナンス体制強化	

当頁は、本中計の『基本方針と方向性・取組み内容』について記載しております。

インドの連結子会社 Nicomac Taikisha Clean Roomsへの出資比率引き上げ

当社は、インドの連結子会社Nicomac Taikisha Clean Rooms Private Limited(2020年7月にパネル製造据付技術と空調設備技術の融合のため子会社化)への出資比率を74%から100%へ引き上げました。

同社は、インドの製薬メーカーを主要顧客とし、クリーンパネル等の製造から施工(据付)まで一貫して行っていますが、近年はインド国内への販売に留まらず、周辺国や米国等へも輸出を行っています。

【出資比率引き上げの経緯】

インド経済は人口増加、都市化の発展、経済改革などを背景に、今後も底堅い成長が見込まれています。インドにおけるクリーンルーム市場は、現在は医薬品向けの工場が大半ですが、今後はインド政府の産業誘致・育成政策に基づく半導体・リチウムイオン電池などの製造施設向けの需要拡大も期待されます。従来、当社の環境システムの海外事業は、中国およびASEANの日系企業を主要顧客としていましたが、今回の出資比率引き上げを機に、同社が持つ大手製薬メーカーへの高いブランド力と、日本で豊富な医薬品向けの工場実績を持つ当社の知見を組み合わせ、インドにおいて、付加価値が高いクリーンルーム建設市場における事業拡大戦略をいっそう推進します。



クリーンパネルによる施工施設
(壁・天井・窓・ドア等)

それでは、中計の各戦略に基づく取り組みのうち、環境システム事業、塗装システム事業の2023年3月期の取り組みを2つ紹介いたします。

1つ目は、環境システム事業の掲げる『付加価値を生み出し続ける事業展開』における取り組みとしまして、さきほど投資計画のページでも触れましたインドの連結子会社 Nicomac Taikisha Clean Roomsへの出資比率引き上げについてです。

インド経済の成長性を鑑み、同社への出資比率を引き上げ100%子会社にしました。

今後、同社が持つ大手製薬メーカーへの高いブランド力と、日本で豊富な医薬品向けの工場実績を持つ当社の知見を組み合わせ、インドにおいて、付加価値が高いクリーンルーム建設市場における事業拡大戦略をいっそう推進してまいります。

IoT・AIを活用した自動車塗装ラインの監視・要因解析システム「i-Navistar」を開発 ～自動車塗装ラインを中心に導入 新たにEMS機能を追加へ～

【開発の背景と狙い】

自動車塗装ラインには多種多様な設備が導入され、生産現場においては、熟練技術者の知見をもとに長時間かけてそれらのデータ分析と検証が繰り返され、不具合が発生した際の原因の特定も、多くの場合人の手に依存している現状にあります。こうした生産性や品質上の課題解決のために、当社では、従来よりIoT・AIを活用し稼働停止および品質不良が発生した際の要因解析を行うシステム「i-Navistar」の開発に注力してきました。

【新たな機能】

自動車メーカー各社の脱炭素化への取り組みに貢献すべく、『無駄なエネルギーの見える化、シミュレーター機能を使った最適エネルギー管理』を目的とした塗装工場の「エネルギーマネジメントシステム(EMS)」機能の開発を進め、すでに多くの自動車メーカーから高い関心が寄せられています。

世界各地で、今後ますます脱炭素化への取り組みが加速していくに伴い、EMS機能へのニーズも高まっていくことが予想されています。



【「i-Navistar」の従来の機能】

①稼働解析システム:

設備の運転状態をセンサーにより常時監視、測定値の傾向から故障を予測。効率の良い保全作業を可能に。

②品質解析システム:

収集された稼働・品質データをもとに品質不良の要因を解析、要因特定までの時間を大幅に短縮。熟練技術者への依存度の軽減を実現。

2つ目は、塗装システム事業の掲げる『グローバルな社会課題を意識した開発』における取り組みとしまして、自動車塗装ラインの監視・要因解析システム「i-Navistar」の開発についてです。

「i-Navistar」は客先の生産性や品質の向上を実現するため、IoT・AIを活用し稼働停止および品質不良が発生した際の要因解析を行うシステムであり、従来より開発を進め、すでに導入実績もございます。

今回新たに、『無駄なエネルギーの見える化、シミュレーター機能を使った最適エネルギー管理』を目的とした塗装工場の「エネルギーマネジメントシステム(EMS)」機能の開発を進め、すでに多くの自動車メーカーから高い関心が寄せられています。

今後、各社の脱炭素への取り組みが加速していくに伴い、EMS機能のニーズが高まることが期待されています。

基本方針	方向性	2023年3月期実績および進行中の主な取り組み	社会価値の創出					
			E 気候変動の緩和と適応	S 汚染防止と環境負荷低減への取り組み	S 人材育成と人材確保	S 整備 職場環境の働きやすい	G ガバナンス 実効性の高いコーポレート・	G 実効性の高い
コア事業のさらなる強化	環境システム事業	付加価値を生み出し続ける事業展開	○	○				
		技術の大気社を強化			—			
		業務の仕組みの改善と生産性向上			○	○		
	塗装システム事業	国内外での確固たる地位の確立		○				
		グローバルな社会課題を意識した開発	○	○				
		業務の仕組みの改善と生産性向上			○	○		

当頁からは、各戦略における2023年3月期の実績や進行中の主な取り組みについて記載しております。ご参照ください。

基本方針	方向性	2023年3月期実績および進行中の主な取り組み	社会価値の創出					
			E	S	G			
新たな価値創出への挑戦	知的財産戦略の立案・推進	- 自社の知財・無形固定資産を活用した知的財産戦略を検討中。 - 知財業務の社内教育および知財に関する規程類の整備実施。 - 新規事業関連特許の出願・権利化を推進中。						
	顧客観念の開発	2023年4月に、アクセスの良いR&Dサテライト「TAIKISHA INNOVATION GATE Shinjuku」を本社に開設し、潜在的顧客ニーズの把握と、新たな価値を創造する製品開発を検討中。	○	○				
	オープンイノベーション	新研究開発センター 計画中(2024年5月完成予定)。	○	○				
	強みとなる技術の水平展開	グリーン機器事業 - 精密温度チャンバー^{※1}の受注活動推進中。 ※1 半導体製造において装置まわりや、超精密加工や測定、検査を可能にする環境空間を構築する設備 - 排気処理装置のラインナップ拡充を実施中。	○	○				
		オートメーション事業 - オートメーション領域の拡大に向けた取り組みを実施中。 - 新規顧客獲得のための活動として、展示会を活用した活動を継続実施中。 - 高塗着効率技術の市場投入に向け、パフォーマンス向上のための各種検証実施中。	○	○				
		植物工場事業 自社工場にて実証実験継続中。市場開拓の戦略については継続検討中。	○	○				
	新規事業の開拓	大学、研究機関、民間企業と、市場調査に基づき、社会実装時のビジネスモデルを想定した新規事業に資する共同研究を実施中。	○	○				

基本方針	方向性	2023年3月期実績および進行中の主な取り組み	社会価値の創出				
			E	S	G		
変革・成長を支える経営基盤の強化	人材資本の育成確保	- 当事業の推進に合致する意欲・能力の高い人材の獲得(新卒採用75名、中途採用27名)。 - 上位職者層を長期計画的に育成するための育成制度・顕彰制度の整備と運用開始。 - キャリアプラン制度のブラッシュアップ、人材データベース活用による効果的な適材適所の配置と業務付与を一部開始。 - 社内風土向上の一環として上司だけではなく、同僚や部下からの評価なども含めた360度フィードバック制度を一部開始。拡大検討中。 「健康経営優良法人(ホワイト500)」認定取得(総合順位301~350位)。 - 長時間労働対策として主に現場業務に従事する社員の実態把握と、課題および職場環境改善対策を検討中。					
	新たな価値提供に向けたデジタル戦略	- 設計・積算・施工管理などのプロジェクトにおける各工程の生産性向上のためのデジタル化・DX化を推進中。設備BIMの標準化と普及・推進に向けた「設備BIM研究連絡会」に参加し活動開始。 - グローバルなIT・DX体制構築検討中。そのうち、セキュリティに関わるIT管理体制の構築開始。 - デジタル人材の育成強化策を検討中。					
	グループガバナンス体制強化	- 事業ごとの資本収益性を図る経営指標の導入を検討中。 - 事業ポートフォリオマネジメントを意識した管理を組織的に実施するための「事業投資ガイドライン」の運用開始。 - 関係会社の取締役会・監査機能の体制および責任範囲の整理を実施。業務プロセスをより明確にし、現地取締役会への報告等によるモニタリング強化を検討中。					

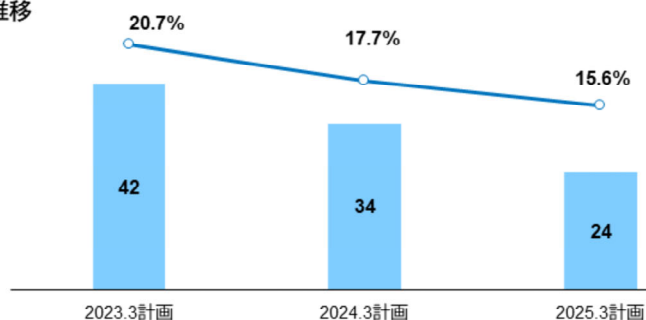
中期経営計画期間において100億円の政策保有株式売却、2年目までに、
政策保有株式(みなし保有株式を含む保有額)の保有額を対純資産比20%未満に削減

中期経営計画期間の計画値			
	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
売却金額	42億円 ^{注1}	34億円	24億円
純資産比率	20.7% ^{注2}	17.7%	15.6%

注1...2023年3月期実績は31億円
注2...2023年3月期実績は21.8%

政策保有株式計画推移

(億円) ■ 売却金額
○ 純資産比率



Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

38

当頁は、本中計の政策保有株式の削減計画について記載しております。

2024年3月期末までに、政策保有株式の保有額を対純資産比20%未満に削減する予定です。政策保有株式の売却を進めることで、2024年3月期末では純資産比率が17.7%となる見通しです。

なお、2023年3月期における売却金額の実績は、31億円であり、2023年3月末時点の純資産比率は、21.8%です。引き続き、計画達成に向けて削減を進めてまいります。

目次

INDEX

1. 連結業績の概要	P.03
2. セグメント別業績の概要	P.09
3. 連結財務諸表	P.23
4. 中期経営計画の進捗 (2022年度～2024年度)	P.27
5. 株主還元	経営企画本部長：中川 正徳 P.39
6. Appendix	P.42

次に、当社の株主還元についてご説明します。

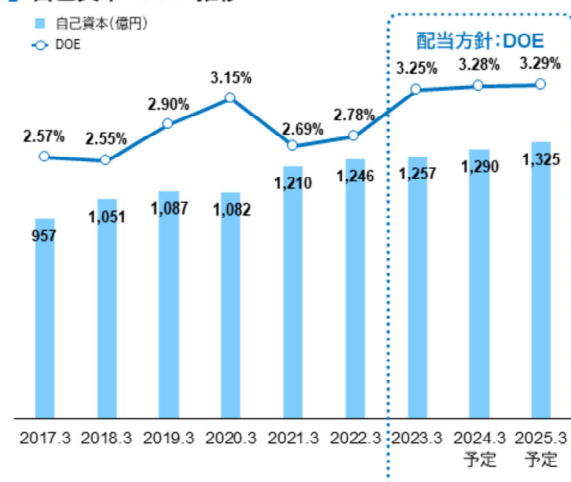
中期経営計画期間は予定通り増配を見込む

【配当方針】 連結自己資本配当率(DOE)3.2%を目指し、安定的な配当を実施

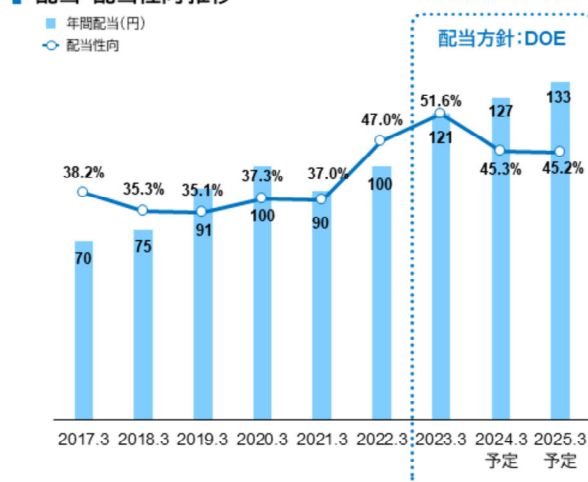
$$\text{DOE } 3.2\% = \text{目指すべきROE水準 } 8.0\% \times \text{配当性向 } 40\%$$

2024年3月期年間配当金は、127円に増配予定

自己資本・DOE 推移



配当・配当性向推移



Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

40

当頁では、配当についてご説明します。

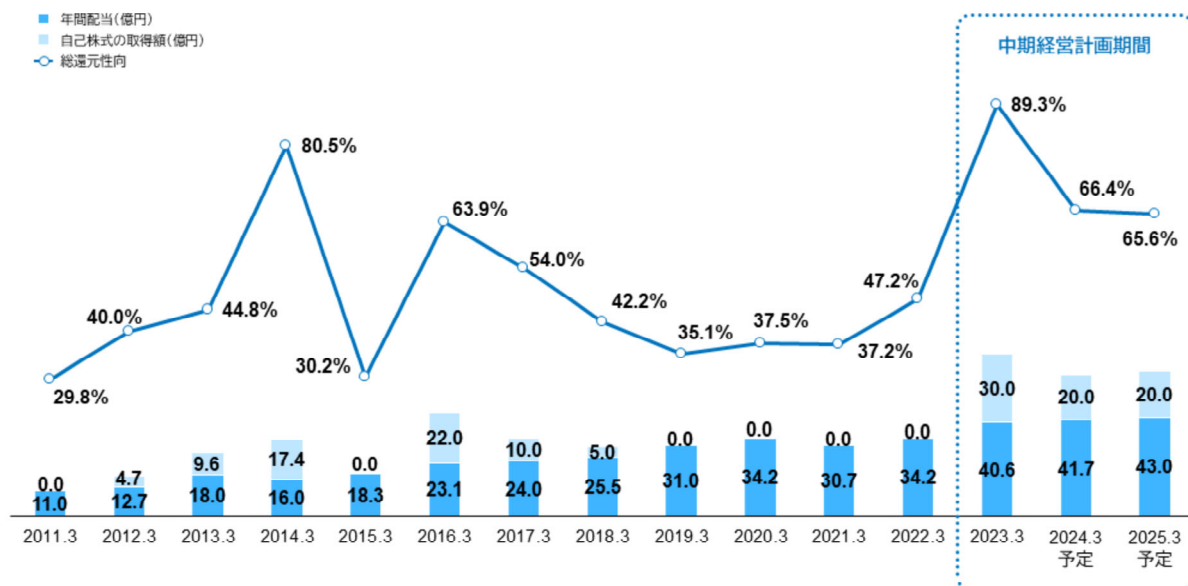
過去の配当方針につきましては、配当性向による目標を掲げておりましたが、2023年3月期から始まった中計においては、利益配当金による利益還元を最重要施策のひとつとして、自己資本配当率(DOE)3.2%を目指し、安定的な配当を実施してまいります。これに基づき、2023年3月期の年間配当は121円の実施としました。

2024年3月期の年間配当は、本中計の配当予定金額から変更せず、1株につき127円で実施する予定です。

配当と自己株式取得を合わせて、高い水準を維持

【自己株式取得の方針】 資本効率の向上と機動的な財務政策の実現を目的として、自己株式の取得を年間20億円を目途に実施予定(2023年3月期30億円実施済)

株主還元額・総還元性向推移



当頁では、自己株式の取得についてご説明します。

薄いブルーの棒グラフが自己株式の取得額の推移を示しております。

中計1年目の2023年3月期は、30億円の自己株式取得を実施しましたが、2年目以降は、年間20億円を目途に自己株式の取得を実施する予定としております。

配当と自己株式の取得を合わせて、より高い水準の株主還元を目指してまいります。

ご参考として株主還元額と総還元性向の推移も載せておりますので、ご参照ください。

本日のご説明は以上となります。ご清聴いただき、ありがとうございました。

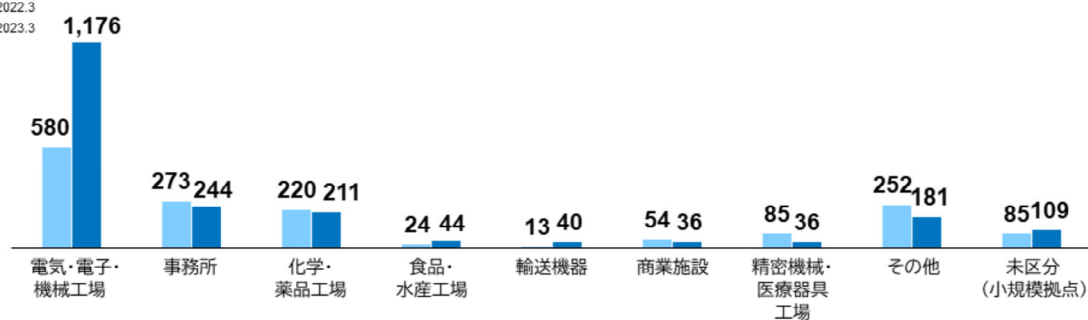
目次

INDEX

1. 連結業績の概要	P.03
2. セグメント別業績の概要	P.09
3. 連結財務諸表	P.23
4. 中期経営計画の進捗 (2022年度～2024年度)	P.27
5. 株主還元	P.39
6. Appendix	P.42

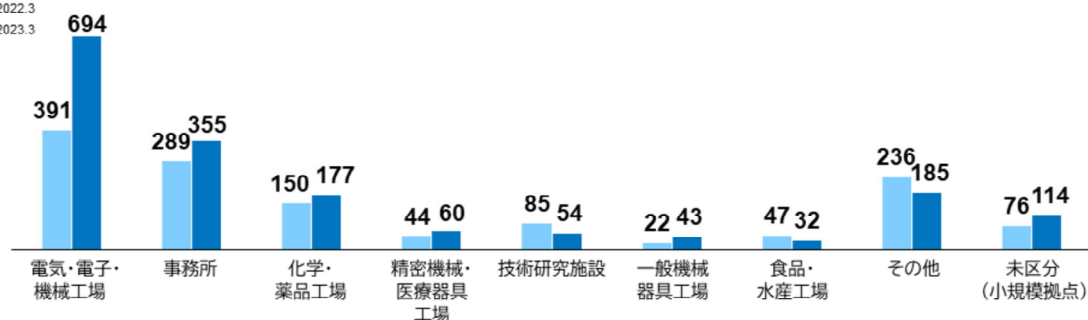
■ 受注工事高

(億円) ■ 2022.3 ■ 2023.3



■ 完成工事高

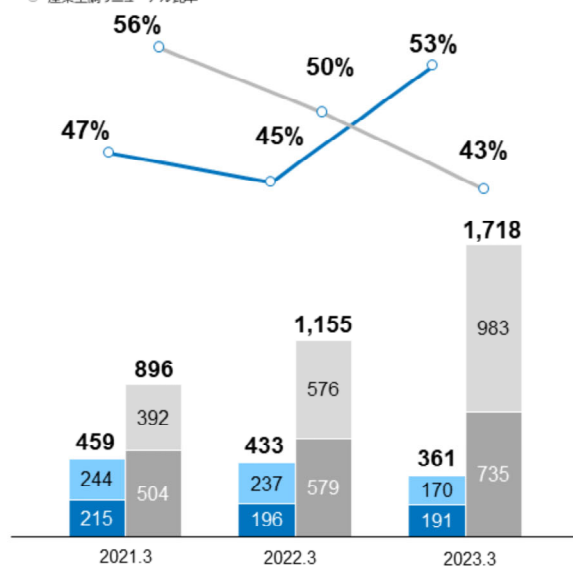
(億円) ■ 2022.3 ■ 2023.3



受注工事高

(億円)

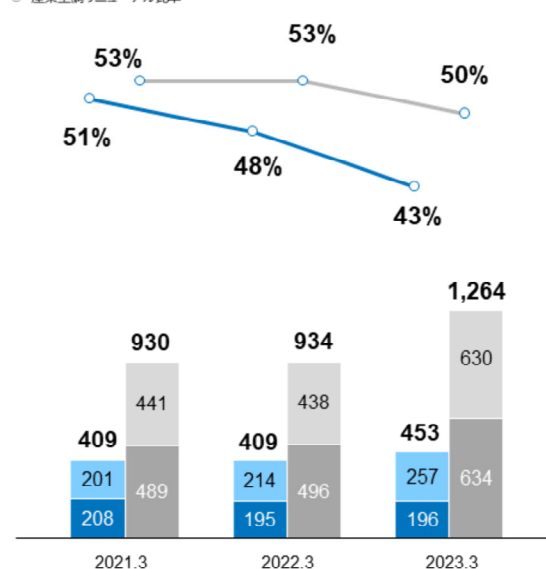
- ビル空調(リニューアル)
- ビル空調(新築)
- ビル空調リニューアル比率
- 産業空調(リニューアル)
- 産業空調(新築)
- 産業空調リニューアル比率



完成工事高

(億円)

- ビル空調(リニューアル)
- ビル空調(新築)
- ビル空調リニューアル比率
- 産業空調(リニューアル)
- 産業空調(新築)
- 産業空調リニューアル比率



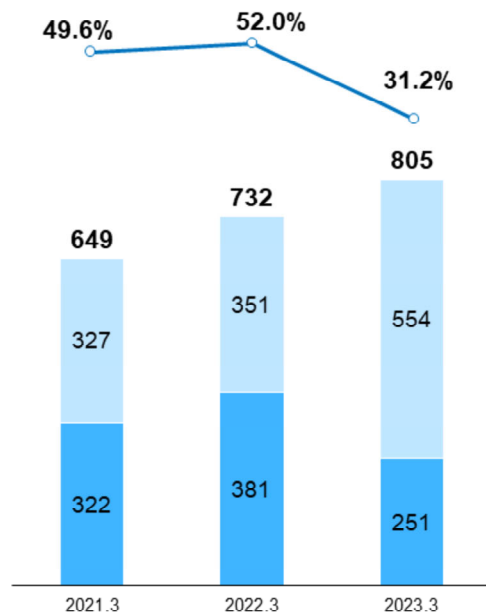
■ 受注工事高

(億円)

■ 日系

■ 非日系

○ 非日系比率



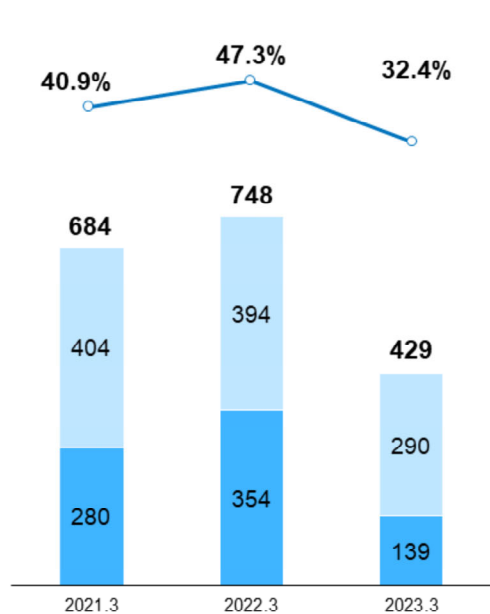
■ 完成工事高

(億円)

■ 日系

■ 非日系

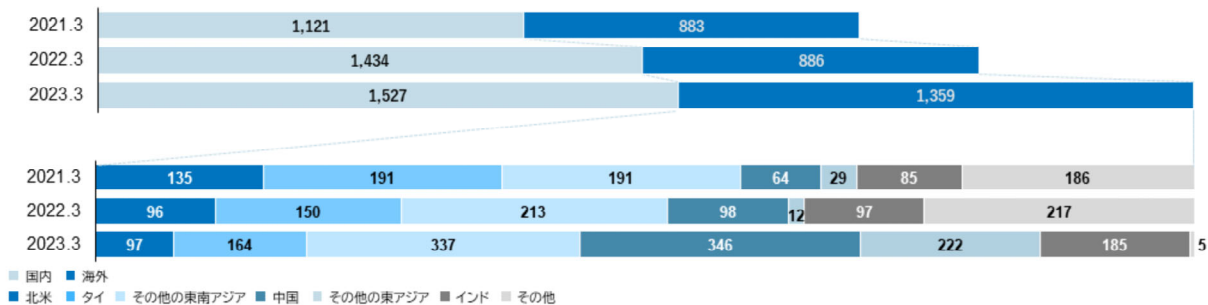
○ 非日系比率



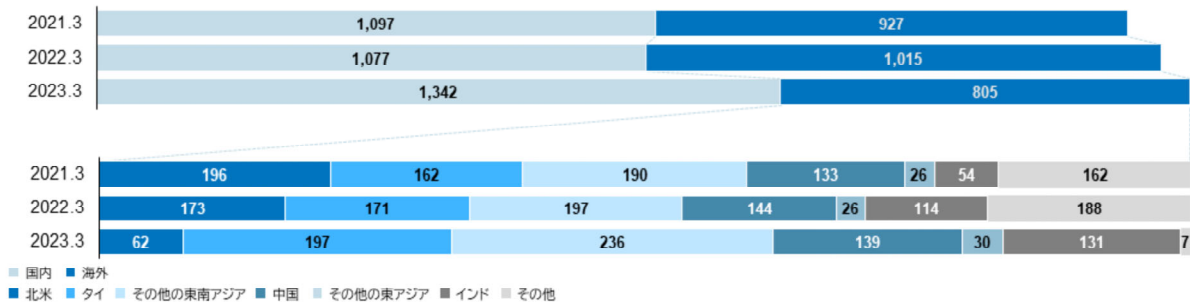
※ 日系メーカーの集計値には、海外日系合弁会社(日系メーカー出資会社の全てを含む)の受注・完工を含む

Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

受注工事高



完成工事高



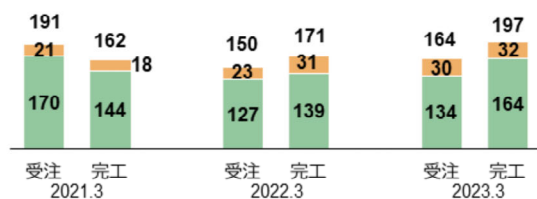
※当セグメントデータは、外部顧客への受注・完成工事高のみの数値

※主な国または地域 ・東南アジア:シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、他 ・東アジア:台湾、韓国 ・北米:アメリカ、カナダ、メキシコ ・その他地域:ロシア、南米、他

海外主要4社の受注・完成工事高の推移

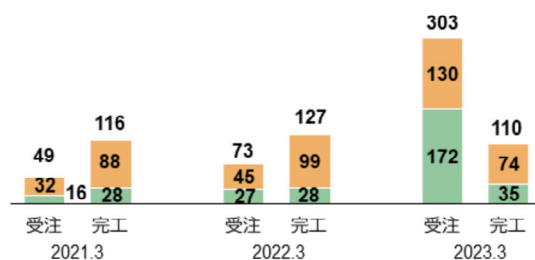
(億円) ■ 産業空調 ■ 塗装システム

Taikisha (Thailand) Co., Ltd. (タイ)グループ

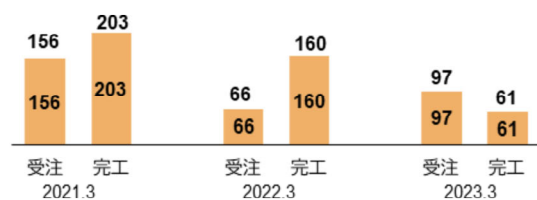


Wu-Zhou Taikisha Engineering Co., Ltd. (中国)

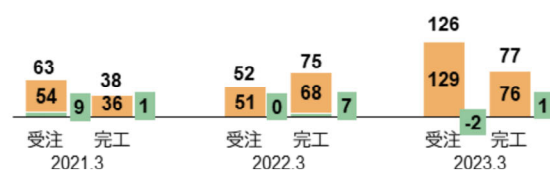
※ 2021年3月期は北京五洲大気社設備有限公司を含む



TKS Industrial Company(米国)グループ



Taikisha Engineering India Private Ltd. (インド)



※ 大気社とグループ会社間の内部取引額を除いた金額

Copyright 2023 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。

本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関するお問合せ先

株式会社大気社 経営企画本部 経営企画部 IR課

TEL: 03-5338-5052 FAX: 03-5338-5195